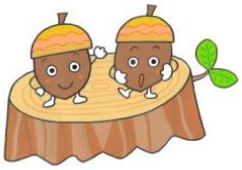


子どもの森づくり通信

発行：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク

〒146-0082 東京都大田区池上１－３－４　tel:03-5755-3213　fax:03-5755-3081
http://www.kodomono-mori.net　　mailto:info@kodomono-mori.net

ＪＰ子どもの森づくり運動
参加園月例会報
（2021年２月号）

「ＪＰ子どもの森づくり運動」とご縁をもたせていただいた方々に、
活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。

＜今月の１枚＞

今月号の子森通信では、**ＪＰ子どもの森づくり運動「全国集会＆研修会2021」Online大会**のレポートをお届けします。おかげ様で、今回の集会＆研修会は、参加者（園）はいうに及ばず、事務局にとっても学ぶことの多い意義深いものとなりました。お忙しい中ご参加いただきました皆様に、心より御礼申し上げるとともに、今回の学びを、今後の活動に反映させていただきたいと思います。（写真：Online大会配信会場風景　制作協力：AMDオフィス）

（目次）

１．ＪＰ子どもの森づくり運動「全国集会＆研修会2021」開催レポート
１）1日目レポート：「新型コロナ感染症下」での自然・環境体験活動、及び「園庭緑化運動」について
２）2日目レポート：本当に子どもの命を守るための「保育防災」について
２．園庭緑化運動リレーエッセイ（2021年2月号）

■「ＪＰ子どもの森づくり運動」とは

今、子どもたちは、高度な情報化社会の中でバーチャルな環境に取り囲まれ、本物の自然体験活動から遠ざけられています。しかしながら、子どもたちは、変化に富んだ自然体験活動の中でこそ、五感を通じて豊かな感性や健全な環境意識、そして子ども本来の生きる力を育みます。「ＪＰ子どもの森づくり運動」は、NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク（「子森ネット」）が「日本郵政グループ」との協働体制で、全国の保育園・幼稚園・こども園を拠点に、一貫した森づくり活動を通じて幼児期の子どもたちに自然体験活動と環境学習の場を提供しようという全国運動です。

■「ＪＰ子どもの森づくり運動」運営体制

・運　　営　：NPO法人 子どもの森づくり推進ネットワーク（「子森ネット」）
・特別協賛　：日本郵政グループ
・主な後援/協力/連携団体

（公社)全国私立保育園連盟	NPO法人 富良野自然塾
（公社）大谷保育協会	（公社）こども環境学会
保育環境研究所ギビングツリー	国際校庭園庭連合日本支部
（公社）国土緑化推進機構	（一社）日本森林インストラクター協会

１．ＪＰ子どもの森づくり運動「全国集会＆研修会2021」開催レポート

2021年2月17日(水)、18日(木)の両日で、**ＪＰ子どもの森づくり運動（特別協賛：日本郵政グループ）**の呼びかけで、全国の保育者、及び保育関係者が集い、より良き保育づくりを目的に情報交換と意見交換を行う**ＪＰ子どもの森づくり運動「全国集会＆研修会2021」Online大会**（以下「集会」」）が開催されました。今回のテーマは、「コロナ感染症下の自然体験活動」「園庭緑化運動」「保育防災」の三つです。ご出講をお願いした講師・発表者による素晴らしい講演や事例発表に恵まれ、本当に有意義な集会となりました。以下、開催概要レポートをお送りします。**詳細は、ホームページをご参照下さい。**

【開催概要】●主催：「全国集会＆研修会2021」実行委員会（幹事園：三茶こだま保育園）●共催：国際校庭園庭日本支部　●特別協賛：日本郵政グループ　●後援：こども環境学会　●協力：全国私立保育園連盟、大谷保育協会、保育環境研究所ギビングツリー、他

１）1日目レポート：「新型コロナ感染症下」での自然・環境体験活動、及び「園庭緑化運動」について（参加者数：52名）

【基調講演】

まずは問題提起として、**～こどもの成育環境とコロナ禍～**をテーマに、こども環境学会代表理事　東京工業大学名誉教授　仙田　満先生による基調講演が行われました。主なテーマとして、「こどもの成育環境・成育空間」「困難をのりこえる人として成長する環境」「コロナ禍とこども環境学会」等についてご講演いただきました。

【パネルディスカッション】

パネラーとして、こども環境学会代表理事　仙田　満先生、木の実キッズキャンパス　唐住園長先生、若久青い鳥保育園　岡村園長先生にご参加いただき、仙田先生の基調講演を受けて、**～新型コロナ感染症下の子どもの体験活動を考える～**をテーマに、パネルディスカッションを実施しました。基本の感染症対策を励行していれば、「屋外活動はまったく問題ない」等の力強い実践例をご提示いただきました。

【「園庭緑化運動」モデル事業活動報告】

集会1日目の後半は、「園庭緑化運動」がテーマです。まずは、「園庭緑化運動」のアドバイザーである国際校庭園庭日本支部　代表　仙田　考先生（鶴見大学短期大学部　保育科准教授）の指導のもとに実施されたモデル事業参加園3園による事例報告です。報告は、「エンゼル幼稚園」「三茶こだま保育園」（写真）「こども園ほしのこ」の順番で行われました。

【「園庭緑化運動」総括と今後の展開】

事例発表を踏まえて、仙田　考先生による「園庭緑化運動2021」の総括と今後の展開についてご講演をお願いしました。ご講演では、まずは、「子どものあそび環境の現状と課題」として、幼児(少)期の自然とのふれあいの意義からお話しいただき、その上で、園庭を多様な体験フィールドとして緑化・自然化していく活動の意義や取り組み、さらに今後の活動についてご講演いただきました。

２）2日目レポート：本当に子どもの命を守るための「保育防災」について（参加者数：38名）

【基調講演】

保育防災の基調講演は、**～平成30年7月豪雨災害を乗り越えて～**をテーマに、社会福祉法人微妙福祉会　副理事長　第二みみょう保育園　松尾 竜　園長先生にご講演をお願いしました。「園所在地のリスクを知る」ことや「地域との連携」等実体験にもとづく、説得力あるお話しをご提供いただき、とても参考になりました。

【保育防災事例発表】

保育防災の活動事例発表には、東京都世田谷区で素晴らしい防災活動に取り組んでいらっしゃる「春明保育園」さんにおお願いしました。同園では、消防庁防災アドバイザーの鎌田修広氏の指導のもと、自園としての防災の仕組みを構築しておられます。「保育士主体の取り組み」、「保護者や地域を巻き込む」こと。さらに、「対策を見える化」し、「習慣になるまで継続する」ことなど、実践的な提案をご提供いただきました。

【保育防災講座】

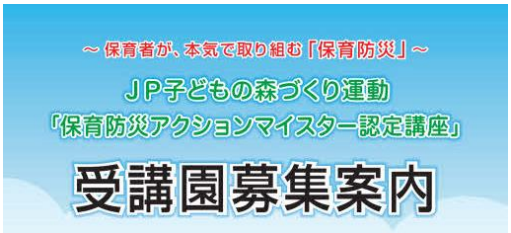
保育防災講座は、ＪＰ子どもの森づくり運動が、これまで取組んできた保育防災のアドバイザーである鎌田修広氏（消防庁防災アドバイザー　㈱タフ・ジャパン　代表）にお願いしました。危機管理で大切な3つの原則としての「予測」「予防」「対応」について、ご自身が携われて地域の防災活動を事例に、熱意あるお話しをいただきました。今回の講座は、次年度より始まる「保育防災認定講座」のシミュレーションとして実施されました。

【パネルディスカッション】

パネラーとして、第二みみょう保育園の松尾園長先生、福岡の若久青い鳥保育園　岡村園長先生、さらに、岩手県から、あかまえこども園の小関園長先生、そして鎌田氏にもご参加いただき、本当に役立つ保育防災に必要な「ひと」「コト」「モノ」についてパネルディスカッションを開催しました。「地域との顔を見える関係の構築」や「防災は締切りの無い取組み」であること、防災は、「想定外を想定内に変える」取組みであることなど、実践的な提案をご提供いただきました。

【「保育防災アクションマイスター認定講座」】概要発表

最後に、ＪＰ子どもの森づくり運動が次年度から取り組む、「保育防災アクションマイスター認定講座」の概要や受講方法について子森ネット　塚原事務局長から説明させていただきました。認定講座についてはホームページをご参照下さい。



２．「園庭緑化運動」リレーエッセイ（2021年２月号）

「園庭緑化運動」の普及を目的に、園庭緑化・自然化についてすぐれた研究や活動に取り組んでいらっしゃる四人の方々のリレーエッセイを掲載しています。「子森通信」2021年１月号から３月号は、園庭研究所 代表　石田佳織さんにお願いしました。先月号の興味深い内容に続いて、２回目のご寄稿です。

～子どもの経験から、園庭緑化を考えよう！～

園庭研究所 代表／東京大学発達保育実践政策学センター 園庭調査研究グループ　石田佳織氏

皆さまこんにちは。園庭研究所の石田佳織です。

さて今回は、子どもがどんな視点や思いで草木を見ているのかについてのお話です。子どもに「園内の好きな場所」をカメラで撮影してもらい、その理由も合わせて話してもらう研究からは、子どもは大人とは異なる視点で環境を捉え、意味付けしていることが示されています[(1)]。例えば、木に登って撮影する子を見て大人は「高いところが気持ち良いのだろう」と思うかもしれません。しかし、ある子が撮影した写真は、まさに枝葉の中のジャングルにいるようでした。また、私が関わらせて頂きました子ども撮影ワークショップからは、園を超えて共通する子どもの好きな環境やその理由がある一方で、その園ならではの環境や理由が挙がりました。「その園ならではの環境や理由」は、日頃子どもがよく取り組んでいる活動やその園が大切にしてきたことが関わっているようです。例えば、科学的視点を大切にされている園では、色水遊びや実験的な遊び場面の写真や理由が複数の子から挙がりました。

草木については、新潟県立植物園で地域の子どもたちに植物園内で「いいね！」と思った草木や草木のある環境を撮影してもらいました。その結果子どもは、①色や形などの「視覚的面白さ」、②△に似ているなどの「擬態的面白さ」、③音や匂いなどの「感覚的面白さ」を草木や草木のある環境に感じていました。このワークショップは単発でしたが、植物園スタッフさんと一緒に、草木や虫や鳥など草木周りの自然について継続的に関わっていくことで、さらに草木への子どもの視点は深くなってくるのではないかと思います。実は、栽培活動時に園児に撮影してもらう研究では、年少・年中と継続して撮影する機会を持つことで、単発よりも、子どもは美的感性や科学的視点を開花する可能性が示されています[(2)]。

新潟県立植物園
子どもが撮影した草木の「いいね！」

もしよければ貴園でも、木を植えたり自然を楽しむ活動の中で、子どもたちにカメラを持ってもらい、子どもの視点や思いを一緒に楽しんでみて下さいね。

【引用文献】

（1）宮本雄太他(2016).「幼児の遊び場の認識 ：幼児による写真投影法を用いて」. 日本乳幼児教育学研究第26号
（2）永井理恵子他（2019）.「幼児の環境認識に関する一考察－幼児による写真投影法を用いて－」.帝京短期大学教育研究報告集第6号

○著者information

◆園庭研究所　HP：https://ameblo.jp/hagukumino-niwa
・Facebookグループ「園庭・地域環境での保育 交流グループ」（園庭や地域での保育・教育に関する話題を通して自由に交流して頂けます。）https://www.facebook.com/groups/ecec.outdoor
◆東京大学発達保育実践政策学センター（Cedep）園庭調査研究グループ
HP：http://www.cedep.p.u-tokyo.ac.jp//projects_ongoing/entei/
◆著者園庭書籍：『園庭を豊かな育ちの場に　質向上のためのヒントと事例』ひかりのくに